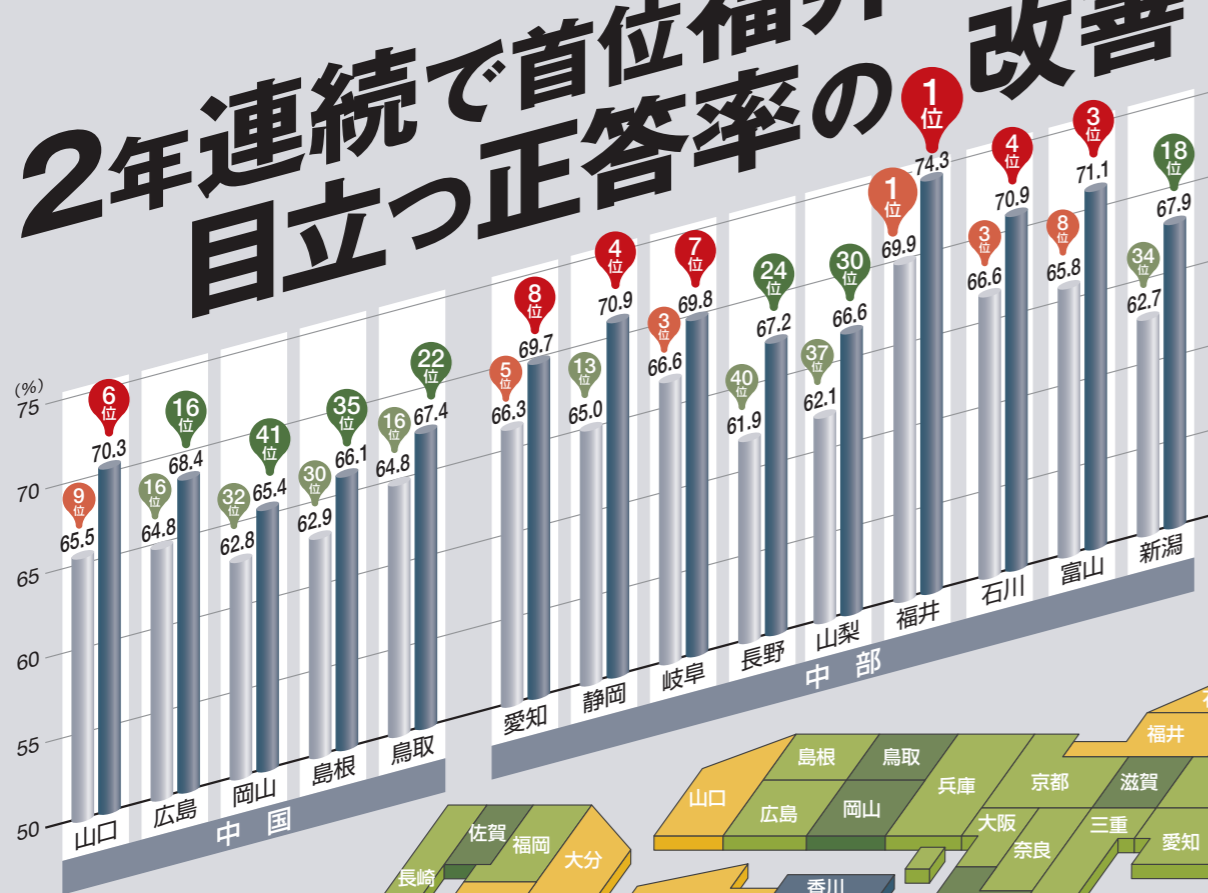


# 2年連続で首位福井 目立つ正答率の改善

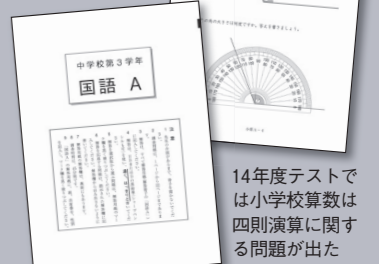


数学A 平均正答率の前年との差

- 5.0ポイント以上 ~ 6.0ポイント未満
- 4.0 ~ 5.0
- 3.0 ~ 4.0
- 2.0 ~ 3.0
- 1.0 ~ 2.0

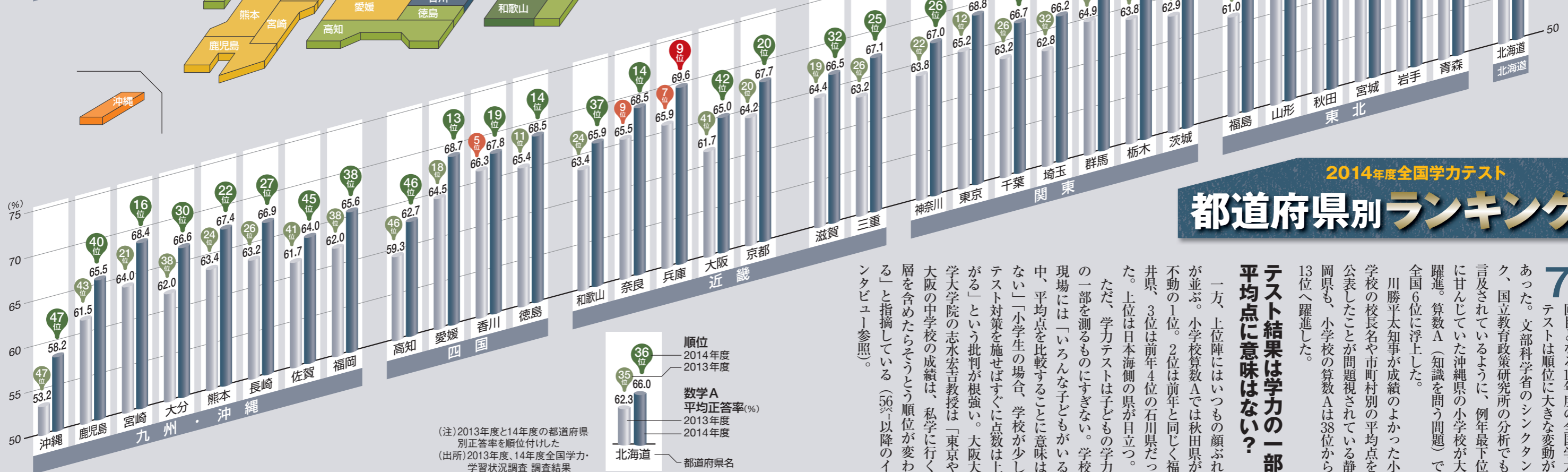
## 小6、中3全員が受ける 全国学力テストとは？

毎年4月に実施される「全国学力・学習状況調査」のこと。小学6年生と中学3年生全員を対象に2007年度から実施されている。教科は国語と算数・数学。それぞれA問題（知識）とB問題（活用）がある。



14年度テストでは小学校算数は四則演算に関する問題が出た

## 中学校数学A 数学の知識を問う問題 (都道府県別の平均正答率と順位)



## 2014年度全国学力テスト 都道府県別ランキング

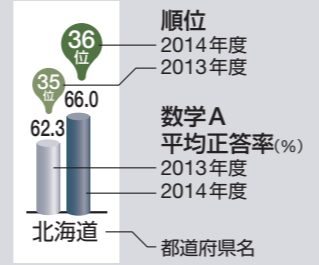
**7** 回目となる14年度の全国学力テストは順位に大きな変動があった。文部科学省のシンクタンク、国立教育政策研究所の分析でも言及されているように、例年最下位に甘んじていた沖縄県の小学校が大躍進。算数A（知識を問う問題）で全国6位に浮上した。

川勝平太知事が成績のよかった小学校の校長名や市町村別の平均点を公表したことが問題視されている静岡県も、小学校の算数Aは38位から13位へ躍進した。

**テスト結果は学力の一部平均点に意味はない？**

一方、上位陣にはいつもの顔ぶれが並ぶ。小学校算数Aでは秋田県が不動の1位。2位は前年と同じく福井県、3位は前年4位の石川県だった。上位は日本海側の県が目立つ。

ただ、学力テストは子どもの学力の一部を測るものにはすぎない。学校現場には「いろんな子どもがいる中、平均点を比較することに意味はない」「小学生の場合、学校が少しテスト対策を施せばすぐに点数は上がる」という批判が根強い。大阪大学大学院の志水宏吉教授は「東京や大阪の中学校の成績は、私学に行く層を含めたらさうとう順位が変わる」と指摘している（56頁以降のインタビュー参照）。



(注)2013年度と14年度の都道府県別正答率を順位付けした  
(出所)2013年度、14年度全国学力・学習状況調査 調査結果